

## 令和5年度 学校運営評価

本学院では、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について、「全教職員による自己点検・自己評価」を実施しています。

この度、令和5年度の評価がまとまりましたので結果を公表します。現在の形での自己点検・自己評価は6年目となり、教職員の学校運営に対する意識も高まってきております。

今後も評価項目等の見直しをはじめ、評価の分析を行い魅力ある学院づくりに努めてまいります。

○実施結果と考察 11 領域 (142 項目)

○評価尺度：4 できている 3 ややできている 2 ややできていない 1 できていない

| カテゴリー          |   | 評価点 | 考察 (課題含む)  |
|----------------|---|-----|--|
| I<br>教育理念・目標   | 学校の教育理念・目標の設定                                     | 3.6 | <p>新カリキュラム2年目となり、新しい教育理念に基づき教育を実施している。さいたま市にとどまらず社会に貢献できる看護師の育成を目指し、国際的視野を持つ一貫として、昨年度はWFP(国連世界食糧計画)、今年度は国境なき医師団による特別講義を実施した。</p> <p>年度始めのHRで教育理念や目標を学生へ周知しており、そこから、各学年の行動目標をおろすようにしている。教員は、教育理念や目標を意識しながら、学生指導にあたっている。</p>   |
|                | 教育理念・目標の達成  |     |  |
|                | 教育理念・目標の確認、見直し                                    |     |  |
| II<br>学校運営     | 将来の構想・展望  | 3.5 | <p>アドミッションポリシーを明確にし、医療ニーズや社会ニーズをふまえ、さいたま市及び社会に貢献できる看護師を育成できるよう努めている。学校の組織目標をもとに学年目標・業務目標を掲げ、3年間で卒業できるよう、教職員全員で学生の教育・生活面に不安がないよう取り組んでいる。</p> <p>組織目標については、年度はじめの教務会議で、前年度の振り返りと評価をし、教員全員が同じ目標達成を目指して学校運営ができるようにしている。事務職員についても教員同様、組織目標に向かって行動できるよう年度初めに周知している。</p>  |
|                | 学校の組織目標を作成しており、かつその目標が教職員に理解されている。                |     |  |
|                | 教育事業目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。 |     |  |
| III<br>教育課程・教育 | 学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容となっている。         | 3.6 | <p>今年度は1・2学年において新カリキュラムの教育を実施した。カリキュラム改正のタイミングで、社会の動向や市の医療ニーズをふまえ、教育理念・目的・目標を見直すとともに、教育内容及び進度も再検討し運用した。シラバスについても、学生が理解しやすいよう授業内容・方法・評価方法を具体的に挙げた。</p> <p>専門分野については開講前に領域ごと検討会を実施し、学生のレディネスに合わせた指導方法を検討している。特に基礎看護学の技術演習については、演習計画を教員全員で共有し、統一した指導ができるようにしている。また、次年度に向けて領域リーダーによる専門分野全体の検討会を行い、科目間の重複・不足を検討し、さらなる教育内容の充実を目指している。</p> <p>学生の単位取得に向けた支援では、入学前から業者テストを導入し3年目となる。学生の基礎学力・学習への取り組み等の分析結果は、学生の学習状況の現状と合っており、指導に活かせる内容であるため、業者テストは継続していく。そのほか、学年担任を中心に、定期的に勉強会を実施し、学習習慣をつけ、再試験者を増やさない取り組みをしている。また、看護学生としての自覚</p> |
|                | 授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしてある。      |     |  |
|                | 効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。                      |     |  |
|                | 授業内容や指導方法が学生のレベルに合うよう工夫・改善している。                   |     |  |
|                | 学生の単位取得に向けた支援を実施している。                             |     |  |

| カテゴリー            |  | 評価点 | 考察（課題含む）  |
|------------------|--|-----|---|
|                  | 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。                          | 3.5 | <p>を持ち、入学後にスムーズに学校生活が送れるよう、令和6年度入学生から、「看護学生の勉強と生活まるごとナビ」を教科書として購入することとした。入学前に配布し、入学後も適宜使用し、学習面・生活面において、看護師になる自覚を持って過ごすことができるよう考えている。</p> <p>実習は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い病院の協力を得ながら実習時間を徐々に延長し、全領域で病棟実習を実施することができた。また、保育園実習や訪問看護実習も実施できた。コロナ禍で臨地から学内での実習となっていた期間にカリキュラム改正となったため、実習病院と密に連絡を取り実習方法や内容について調整を図った。</p> <p>実習評価について、学生に評価の視点（評価基準）を提示している。実習最終日には評価面接を行い、学生個々の課題を相互に確認している。また、評価の公平性・妥当性の担保として、実習1クール終了ごとに評価会を開き指導担当した教員全員で評価結果を確認している。</p> <p>看護職の倫理綱領に基づいた行動がとれるように患者への倫理的配慮について、実習オリエンテーションやカンファレンス、実習場面の振り返り、実習記録等を通して指導を行った。</p> <p>ヒヤリハットが起きたらすぐに、グループ内でカンファレンスを実施している。教務会議では教員全体に周知し、学生にもグループごとに周知し、同じヒヤリハットやインシデントが起きないように指導している。今年度は、ヒヤリハットレポートは25件発生しているが、すべての事例について、該当学年の学生にはタイムリーに考えさせている。記録の取り扱いに関しては、普段の学校生活での私物や授業資料の管理を徹底するよう指導している。また、技術演習の際にはヒヤリハットの具体例を挙げ、根拠を明確にした技術習得ができるよう指導している。</p> <p>講義、実習ともに、学生による授業評価結果を教員に返却している。教員は、学生授業評価結果に基づき自己評価を行い、授業改善に努めている。</p> |
|                  | 実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導に当たる体制がある。              |     |   |
|                  | 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれている。 |     |   |
|                  | 実習時の患者への倫理的配慮を励行している。                              |     |   |
|                  | 実習時のインシデント・アクシデント等を分析し、学生生活に活かしている。                |     |   |
|                  | 学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めている。                |     |   |
| IV<br>学生の募集と受け入れ | <p>学生募集の方法</p> <hr/> <p>入学者選抜方法</p>                | 3.5 | <p>県内高校訪問61校、学校説明会5回、小規模説明会4回実施した。業者主催の説明会は24校に出席、さらに1月以降8回予定している。また、2名の学校見学希望があり、学校説明会に準じ対応した。学校説明会に合わせて高校教諭との懇談会を2回実施した。6校6名の教諭が参加し進学希望状況等について情報交換、意見交換を行った。参加校のうち4校13名が受験している。</p> <p>学校説明会での看護体験は毎回異なった内容を計画し、入試形態ごとの体験談が聞けるようグループ編成する等、在校生との対談も充実させた。また、保護者の疑問・質問にも個別に対応でき</p>   |

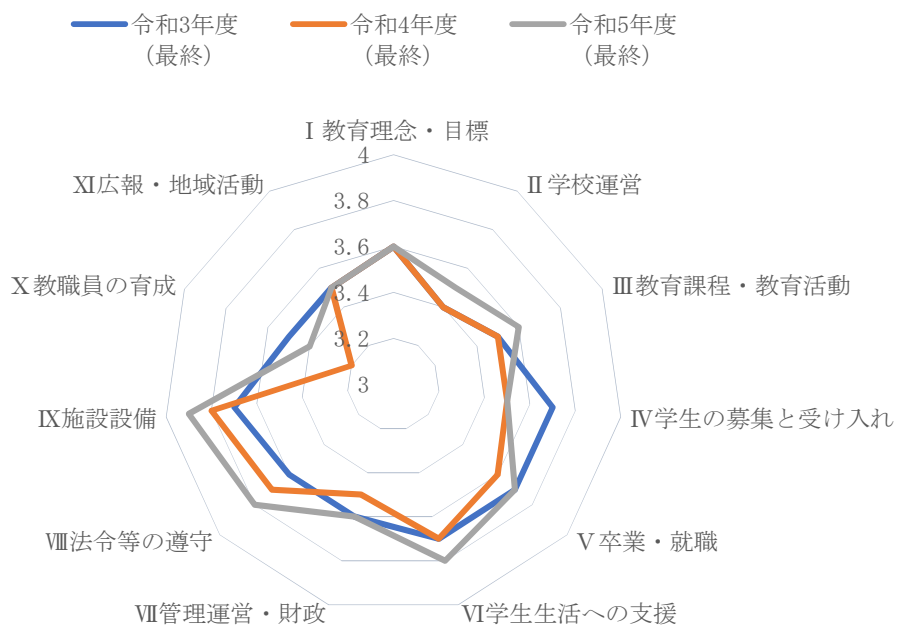
| カテゴリー      |                                      | 評価点 | 考察（課題含む）   |
|------------|--------------------------------------|-----|--|
|            | 学生定員の質・量的充足状況                        |     | <p>るよう時間・場所を確保し、学院長・教務主任、事務が関わった。参加者の事後アンケートを見ても看護体験・在校生との座談会は好評で保護者に個別対応したことで安心感につながったようだ。</p> <p>公開講座（対象：中学生・高校生）には3名の参加があった。開催にあたっては市報掲載の他、さいたま市立中学校長協議会で説明し協力を得ている。</p> <p>入学者の選抜方法は募集要項とホームページに明示している。また、合格基準については入試選考委員会で合格基準を決定し合格者を出している。今年度は、入学試験の応募状況を見て、2月17日にC日程を実施することが決定している。それについては、ホームページで周知するとともに、埼玉県内の高校に電話と郵送で知らせている。</p> <p>推薦入試については昨年度より市内枠と県内枠を設け、今年度2年目となる。市内推薦25名程度、県内推薦5名程度の募集枠に、市内推薦は27名、県内推薦は2名の応募があり、市内27名、県内2名が合格し入学を予定している。</p> <p>推薦、社会人、一般入試とも、応募人数が定員より少ないか同等くらい的人数であり、引き続き応募者減少に対しての対策を検討していく必要がある。</p> <p>3学年の定員数は180名、4月時点での在籍数は188名であった。現時点で退学者4名、休学者2名、在員数186名で定員の103%になっている。休学者は全体の約1%、退学者は全体の約2%となっている。</p> |
|            | 学生募集に関する分析・評価体制                      |     |  |
| V<br>卒業・就職 | 国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいる。 |     | <p>各学年担任1名と教務主任で国家試験対策プロジェクトチームを構成し、月1回、国家試験対策プロジェクトを開催している。各学年の模擬試験、国家試験対策について年間計画を立案し、国家試験対策の実施状況や模擬試験の成績低迷者対策を検討している。プロジェクト終了後、教務会議で検討内容を共有し、学年担任、アドバイザーが学生の学習指導にあたっている。また、3年次の国家試験対策として模擬試験結果を分析し、担任や国家試験プロジェクトメンバー、領域担当教員が中心となり成績低迷者に対する補習講義を行っている。</p>   |
|            | 卒業時の到達状況を分析している。                     | 3.7 | <p>就職については、さいたま市に貢献できる人材を育成することを目標にしているため、夏休み期間を利用してインターンシップに参加できるよう、市内の病院説明会や見学会に関する情報を提供し参加を促している。現時点までに約8割の学生（2年生）が就職説明会に参加し、就職に向けて活動を開始している。</p> <p>各病院の就職試験や募集期間が年々早まる傾向にあり、今年度もさいたま市内の病院7施設に依頼し、2月に就職説明会を計画している。</p> <p>今年度の卒業生54名中、就職予定者は51名であり、51名全員が市内の病院に内定している。進学希望者3名全員が、希望した学校に進学が決定した。卒業生には、卒業前に「卒業時のカリキュラムに関する満足度調査」を実施し、到達状況とともに学生の満足度を把握し、次年度の教育に活かせるようにしている。</p>   |
|            | 卒業生の市内就職率を高めるよう努力している。               |     |  |
| VI<br>学生生  | 健康管理                                 | 3.8 | <p>新型コロナウイルス感染症予防のために開始した体温・体調観察は継続し実施している。インフルエンザの流行もあり、学生には体温表への記入と日頃から体調管理に努めるよう指導してい</p>   |

| カテゴリー              |   | 評価点 | 考察（課題含む）  |
|--------------------|---|-----|---|
|                    | 進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分に応じている。             |     | <p>る。</p> <p>年度初めに実施する健康診断で要受診となった学生に対し、校医と相談し受診後の経過観察をしている。</p> <p>学生生活や進路・就職については、担任やアドバイザーが相談に応じている。また経済面は事務が相談や奨学金の説明を行い経済面の支援を行っている。</p> <p>退学者の状況として、生活リズムの乱れが学習に影響し成績低迷から退学に繋がっているケースが多い。普段から遅刻・欠席しがちな学生に対しては丁寧に生活指導を行い、学習の遅れにつながらないように指導している。そのような学生の状況は教務会議等で情報共有し必要時、保護者を交え面談し、継続的にフォローアップしている。</p> <p>学生が退学・休学とにならないように引き続き、学生を健康面・学習面・経済面の支援を行っていく。</p>   |
|                    | 就職等の進路や経済的、精神的側面からの学生支援体制が整い、効果的に活用している。  |     |   |
|                    | 中途退学者の防止                                  |     |   |
| VII<br>管理運営・<br>財政 | 財政基盤を確保することの考え方が明確であり、教育の質の維持・向上につながっている。 | 3.6 | <p>学会、研修費や図書、備品など、予算を取って動くものについては、教員の意識はあるが、学院の財政全般については意識が薄い。年度初めに、積算の基礎を使い、事務から説明する機会を設けていく。</p> <p>危機管理体制については、防災計画に基づき防災訓練を行った。例年の避難訓練に加え、「さいたま市防災アプリ」を紹介し、身近なところから防災対策を考える機会とした。今後も自然災害や人的災害も含め、いつ起こるかかわからない災害についての意識を高め、危機管理体制を強化していく必要がある。</p> <p>成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、1年生に対して消費生活総合センターからWEB上でのトラブルや詐欺等について話をしてもらい、学生がトラブルに巻き込まれないよう学生自身の問題として考える機会を設けた。また昨年3月に実施した1年生対象の年金制度の講義も好評であったので今年度も日本年金機構の方に講義を依頼している。</p> <p>意見箱は毎月1日に学院長が確認し、学生からの意見をくみ取り、掲示板で回答をしている。</p> |
|                    | 適正な予算執行・事業の推進管理                           |     |   |
|                    | 危機管理体制                                    |     |   |
|                    | 学校運営に学生の意見が反映されているよう努めている                 |     |   |
| VIII<br>法令等の遵守     | 法令・専修学校設置基準等の遵守                           | 3.8 | <p>法令及び専修学校の設置基準を遵守し、適正に運営している。コンプライアンスについては、市からの通知文を教職員全員で確認し行動している。</p> <p>個人情報保護に関しては、守秘義務の重要性について、学生や教職員に周知徹底を図っている。</p> <p>学校評価の公表は、「学校運営評価」「学校関係者評価」を学院ホームページで公表している。学校運営に関しては、7月に「学校運営委員会」を実施し、学校評価と共に学院運営の取り組み説明し、運営委員から学校運営についての意見をもらっている。また、教職員の自己点検自己評価を年2回実施し、9月の中間評価の時点で明らかになった改善点については、最終評価までに改善できるよう努めている。</p> <p>2月には、学校関係者評価委員会を開催し、他者評価を受け学校運営を行っている。</p>   |
|                    | コンプライアンスに関する教育                            |     |   |
|                    | 個人情報の保護について十分対策がなされている。                   |     |   |
|                    | 学校評価の公表について。                              |     |   |

| カテゴリー        |  | 評価点 | 考察（課題含む）   |  |
|--------------|--|-----|--|--|
| IX<br>施設設備   | 校舎の構造                                      | 3.9 | <p>平成 29 年に校舎を建て替え耐震性には問題がない。障害者トイレやエレベーターの設置等バリアフリーの構造になっており、定期点検も行っている。大地震や台風のあとなどは校舎内外の点検をし、不具合が生じた場所については適宜修繕を依頼している。市立病院駐車場工事が一昨年から続いているが、学生の登下校時の安全確保、騒音による授業への影響が少なくなるよう配慮した。また、学生駐輪場も整備され安全、快適に使用できている。</p> <p>図書室は、学生がいつでも自己学習や本の貸し出しができるようにしている。自己学習時間や放課後に学習している学生も多く、本の貸し出し以外での利用も多い。感染防止の観点から飲食の場としてのラウンジの使用を禁止していたが 5 類移行に伴い開放した。学生がリラックスできる場所として利用されている。</p> <p>実習室については、学生が自主練習しやすいように実習室ベッドの利用状況を廊下のホワイトボードで知らせている。時期による利用状況の差はあるが、空き状況を見ながら学生が自主的に練習している。</p> <p>多職種連携ハイブリッドシミュレータ（2 台）とタブレット（ipad3 台）は演習実践の発表や振り返りに活用している。Wi-Fi 環境が整ったことにより授業内容の充実につながっている。</p> <p>新カリキュラムでは ICT の充実が求められている。電子教科書を導入している看護学校も増えてきており、学生からの希望もある。業者による説明も受け、導入に向けて取り組んでいきたい。また、医学中央雑誌を導入し看護研究の授業時に活用している。</p> |  |
|              | 施設・設備・教材の妥当性                               |     |  |  |
| X<br>教職員の育成  | 看護教育に必要な研修に参加できる体制が整えられ、ほかの教職員に還元する仕組みがある。 | 3.4 | <p>学会、研修会に参加し情報収集や学習を行っている。コロナ禍をきっかけに、ハイブリットで実施する学会や研修が増えており、業務調整を行いながら在宅学会や研修に参加しやすくなっている。一方で、対面での学会、研修にも行きやすくなり、現場でしか味わえない臨場感や学びを得ることができた教員も多く、今後も業務調整を図りながら、自己研鑽に励むことができる環境を作っていきたい。</p> <p>他校の教員を招き研究授業を 2 回実施し、今年度は 6 名の参加があった。演習の進め方を工夫して看護技術の授業を行い、他校の教員からプラスのフィードバックを受け、授業者も達成感を感じていた。学内での授業参観は、同じ領域の教員間では行われているが、授業参観というよりは、授業協力という形になっている。今後は、自己研鑽のためにも、領域に関わらず他の教員の授業参観ができるよう、調整を図っていく。</p> <p>教員の研究については、現在 3 名の教員が共同研究として取り組んでいる。</p>   |  |
|              | 計画的に授業研修や研究活動を行えるような体制が整えられている。            |     |  |  |
|              | 授業をほかの教員が参観、講評できる制度がある。                    |     |  |  |
| ㊦<br>広報・地域活動 | ホームページ・学校案内                                | 3.5 | <p>ホームページは、入試情報、学校説明会等適時更新している。</p> <p>学生のボランティア活動では、地域への貢献活動として学院周囲のごみ拾い、学内でできる活動として選挙への投票、献血への啓発ポスター作成及び校内への掲示に取り組んだ。今後は、コロナ禍で中止していた、外部施設でのボランティア活動も再開できるよう、学生に働きかけていく。また、1 年生有志が学校及び病院駐車場周囲の落ち葉清掃を実施した。清掃担当職員に対する感謝や奉仕の意識に繋がった。</p> <p>2 月に行われる「さいたまマラソン」には教員 6 名、学生 8 名</p>  |  |

|  | カテゴリー   | 評価点 | 考察（課題含む）   |
|--|---|-----|--|
|  | <p>地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っている。</p> |     | <p>がボランティアとして参加する予定である。</p> <p>学院側の地域への貢献は、公開講座を実施し、昨年度から参加対象者を高校生２年生まで拡大し、９名の参加があった。また、さいたま市の区役所職員を対象に、高齢者や障害者、妊婦の対応について、特徴を知ってもらい市民への対応を考えてもらう研修を実施した。</p> |

## 令和5年度学校運営評価



|               | 令和3年度<br>(最終) | 令和4年度<br>(最終) | 令和5年度<br>(最終) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| I 教育理念・目標     | 3.6           | 3.6           | 3.6           |
| II 学校運営       | 3.4           | 3.4           | 3.5           |
| III 教育課程・教育活動 | 3.5           | 3.5           | 3.6           |
| IV 学生の募集と受け入れ | 3.7           | 3.5           | 3.5           |
| V 卒業・就職       | 3.7           | 3.6           | 3.7           |
| VI 学生生活への支援   | 3.7           | 3.7           | 3.8           |
| VII 管理運営・財政   | 3.6           | 3.5           | 3.6           |
| VIII 法令等の遵守   | 3.6           | 3.7           | 3.8           |
| IX 施設設備       | 3.7           | 3.8           | 3.9           |
| X 教職員の育成      | 3.5           | 3.2           | 3.4           |
| XI 広報・地域活動    | 3.5           | 3.5           | 3.5           |